

将来像を“文化交流都市 笠間～未来への挑戦～”と 位置づけ、まちづくりへの「挑戦」を続けています。

新時代の基盤を築く

令和3年施政方針

新型コロナウイルス感染症の感染者が国内で初めて確認されてから1年が経過し、未だ終息が見通せない状況が続いています。国の緊急経済対策に加え、市独自の支援を実施するなど、感染症対策と社会経済活動の両立に向け、引き続き状況を見極めながら的確かつ積極的に対策等に取り組んでいきます。

また、ワクチン接種については、プロジェクトチームを発足して体制強化を図るとともに、シミュレーションを重ねるなど迅速に接種が行えるよう進めています。

さらに、都市基盤や生活環境の整備、健康増進・福祉の充実、産業や教育・文化・スポーツの振興、活力ある地域づくり、自治体運営の7つの柱に沿って施策を推進します。

一方、東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが7月4日に本市で行われる予定であり、機運醸成とスポーツへの参加意識を高め、スポーツにおける地域の活性化を図っていきます。それに向け、笠間スポーツコミッションを創設し、

プロスポーツチームの誘致や支援、ハイレベルな競技大会の開催やアーバンスポーツへ取り組むことで、若年層における市の魅力向上や都市ブランドの向上につながると考えています。

本市は今年、合併後15周年の節目を迎えます。これまでの成長のあゆみを振り返り、未来に継続していくことが、務めであると受け止めています。コロナ禍を契機とした社会環境の変化など、行政が何をすべきで、何ができるのかを考えながら、使命感をもって市の新時代を築いていく取り組みを進めていきます。



SDGsってなに？

SDGs(持続可能な開発目標)は、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。

17のゴールと169のターゲットで構成され、日本としても積極的に取り組んでいます。

笠間市では、第2期笠間市創生総合戦略において、横断的な取り組みの強化の観点から、SDGsを原動力とした施策と事業の推進を位置づけ、さらなる取り組みの充実を図っていきます。これを受け、今年度の重要事務事業においても、関連性を分かりやすく示すためSDGs各目標のアイコンを用いて示します。

笠間市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



笠間市の財政状況をもっと知ろう！

笠間市公式ホームページで、さらに詳しく財政状況を確認できます。
ホームページ内の検索窓で「予算概要」で検索

▶ <http://www.city.kasama.lg.jp>

利便性の高い公共交通網の形成【新規】

自動運転などの新たな技術や、各移動手段をつなぐ MaaS (mobility as a service) の概念を取り入れるなど、さまざまな移動手段の組み合わせや導入を図ることで、生活と観光、双方が利用しやすく、持続性がある公共交通網を推進します。

●公共交通対策事業（公共交通網の形成）【新規】

シェアサイクル、グリーンスローモビリティの試験運行や導入、既存の路線バス等も組み合わせた公共交通網の再編を推進

●デマンドタクシーかさま運行事業

●公共交通維持確保事業

市内路線バスの運行継続のための支援

●通学支援事業（スクールバス運行）

●観光周遊バス運行協議会事業

●友部駅内の設備更新（エレベーター）



PICK UP

重要事務事業と、令和3年度予算

空家・空地利活用の促進【新規】

「空家・空地バンク制度」を運用し、空家等の利活用を推進します。

●空家利活用補助金

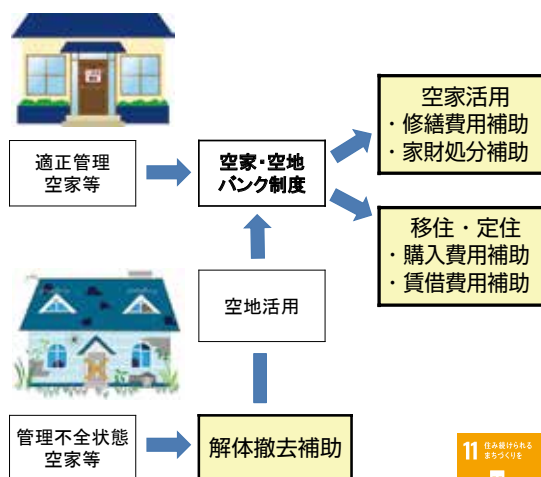
- ・空家の家財処分、取得、修繕、家賃にかかる費用の一部を補助
- ・既存の住宅状況調査にかかる費用の一部を補助

●空家解体撤去補助金

●空家等対策計画の改定

●既存住宅地における移住の促進

芸術家など地域の特性に合った移住や、空家を活用した二地域居住を推進



令和3年度は、社会変化に対応した安心できる
笠間暮らしの形成。

— 新たな手法・技術の導入
によるサービスの向上 —

今回のコロナ禍は、医療・予防、産業、教育、行政など、幅広い範囲におよぶ社会変化とともに市民生活に不安をもたらし、改めて安心で安全なまちづくりの必要性が求められています。これらの状況を受けて、事業の見直しやビルド・アンド・クラップにより、可能な限り経費の見直しを図るとともに、「社会変化に対応した安心できる笠間暮らしの形成」を重点課題として設定しました。公民連携とデジタル化を共通の視点として、安心を感じる質の高い笠間暮らしの実現するため、「ひと」「まち」「もの」の3点をテーマとした重要事務事業を選定しました。



第2次総合計画で定めた将来像、文化交流都市。その将来像実現に向けた都市基盤など7つの政策方針に基づき、それぞれの政策と目標を達成するため、令和3年度に選定した重要事務事業は62事業。その中の一部をピックアップします。

※62事業は市ホームページでご覧になれます。一部掲載順がホームページ上のものと異なります。

3 重点道の駅の整備【拡充】

感染症対策を徹底し、高速バスで来る首都圏の観光客の取り込みや、観光情報発信・シェアサイクルの活用を図るなど、市のゲートウェイとしての役割を担います。

インバウンドに対応した観光拠点の形成、高速道路と連携した交通結節点としての機能強化、官学連携による商品開発・子育て支援、災害時の広域防災活動拠点としての整備等を推進します。

また、農産物直売所が年間を通して豊富な品揃えを確保できるよう、出荷量・出荷者の拡大を図ります。

- 道の駅整備工事
- 道の駅からシェアサイクルや周遊バス等の二次交通機能強化



道の駅イメージ（2021年秋オープン予定）



5 友部駅南口周辺の魅力向上【新規】

市の玄関口としての役割を担う駅周辺のさらなる賑わいの創出および安全・円滑な交通の確保のため、県と協力し景観・歩行環境を向上させる整備を進めます。

- 市役所周辺整備【新規】

笠間市役所前区間の道路新設改良工事の実施

- 友部駅南口地区活性化計画【新規】

友部駅南口地区の無電柱化を契機に、同地区での安全で快適な生活環境の創出と活性化対策に向けた協議会設立や勉強会の実施



整備イメージ



4 多目的広場の整備・活用

さまざまな年代の方が多目的に利用できる広場として、本年中の供用開始を目指します。



多目的広場イメージ

- 多目的広場の整備等

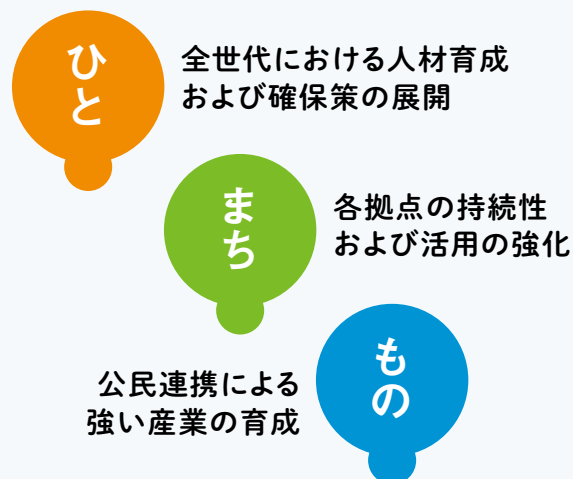
- ・多目的芝生広場（約10,000㎡）
生涯スポーツや多目的な用途に利用できる「運動・多目的ゾーン」
- ・交流広場（約1,800㎡）
イベントやレクリエーションなどの交流活動の場、憩いの場となる「交流・休憩ゾーン」
- ・遊び広場（約3,000㎡）
未就学児から小学生まで安全に遊べる大型遊具を配置した「遊びのゾーン」（バリアフリー設計で障がい者にも配慮）



令和3年度は第2次笠間市総合計画および第2期笠間市創生総合戦略に即した62事業を重要事務事業に選定しました。

人口減少、少子化・高齢化を背景にした課題は継続して多岐にわたるなかで、デジタルシフトへの社会的な潮流、リモート化、居住地等の分散化、新たなライフスタイルに伴う需要の変化など予想される仕組みに合わせた取り組みを進めていきます。

さらに、教育、保健、福祉、産業等の全世代に対する各種サービスの向上を図るための「多様な人材育成及び確保の推進」や既存企業・事業者の支援強化と新たな誘致を図りながら、地域経済への効果や所得の向上にむけた「稼ぐ力の強化につながる支援の展開」、スマートシティの形成等を含む道の駅をはじめとする拠点の整備など「公民連携による持続する基盤の強化」を推進していきます。



7 笠間芸術の森公園スケートパークの活用【新規】

オリンピックの正式種目となったスケートボードやBMX等が楽しめる、国大最大級の「スケートパーク」が3月20日に開園しました。

若年層の利用促進と笠間芸術の森公園のさらなる活性化を図ることで、スポーツを活かしたまちづくりを推進します。

【スケートパークの管理運営】

●指定管理者制度の採用

指定管理者「株式会社ムラサキスポーツ」

●ネーミングライツ事業

パークの命名権を民間事業者に付与する「ネーミングライツ事業」を市で初めて導入



笠間芸術の森公園 スケートパーク

●今後の活用

大規模大会の誘致や各種スクール、イベント等を開催し、県内外から多くの若者呼び込み、地域経済の活性化を図る



6 笠間 PA スマート IC 構想の推進【拡充】

高速道路の利便性の向上、観光・産業を中心とした地域の活性化および災害・緊急時の対応強化を図るため、笠間PAへのスマートIC設置に向けた調査を実施します。



笠間 PA スマート IC 構想図

●測量及び設計業務委託



9 カーボンニュートラルの実現【新規・拡充】

温暖化対策への取り組みとして、使い捨てプラスチック使用削減の推進を継続します。また、新たに「ゼロカーボンシティ」を宣言し、市全体で脱炭素社会の実現を目指します。

●環境寺子屋 Web 配信【拡充】

●環境人形劇の実施【拡充】

●エコクッキングの実施

●事業者の先進企業視察【新規】

●グリーンスローモビリティの活用【拡充】

●シェアサイクルの活用【拡充】

●河川流域の水質浄化

●公用車の低燃費車への変更

●環境サポーター制度の導入【新規】



8 消防・防災体制の強化【新規・拡充】

消防体制の強化・情報伝達の強化・災害時の感染症対策・地域防災力の強化等により、消防・防災体制の強化を図ります。

●岩間消防署の設計【新規】

老朽化した岩間消防署の新庁舎建設実施設計

●救命救急士の育成

●防災無線のデジタル化推進

●消防救急無線・指令センターの共同運営

●公園周辺の危険木伐採

●自主防災組織の育成・活動の促進

●避難所の拡大・充実

届出制自主避難所（地区集会所等）の登録促進

●災害と感染症の複合災害に備えた体制の構築【拡充】



安心を感じる暮らしの実現に向けた予算

令和3年度予算

一般会計・特別会計・企業会計を合わせた令和3年度の予算総額は、564億1,686万1千円となっています。

予算編成にあたっては、限られた貴重な財源を有効活用するため、必要性が高い事業に重点を置いた予算とすることを掲げ、行財政改革を推進しつつ、事務事業の見直しやビルド・アンド・スクラップにより、効率的で実効性の高い行政運営を目指し、全部署において可能な限り経費の見直しを図りながら、重点的な課題への新たな取り組みを積極的に進めることとしました。

公民連携およびデジタル化を共通の視点としながら、安心を感じる質の高い笠間暮らしの実現に向けた産業の育成、各拠点の整備等に向けた予算編成を行いました。

一般会計

一般会計は、市税や地方交付税をはじめ、国・県からの補助金や交付金などを財源として、福祉・教育・土木・衛生などの基本的な施策を行う会計です。

一般会計予算は、324億5,000万円となっています。

11 消防団活動の支援強化【新規】

- 消防団車両更新【拡充】
- 消防団員免許取得補助金【新規】
消防団に入団する方に対し、活動に必要な免許（準中型免許）の取得を支援
- 消防団応援の店（登録69店舗）
消防団員を地域ぐるみで応援し、消防団員やその家族等へ、協力店舗がサービスを提供



10 新型コロナウイルスワクチン接種体制の構築【新規】

感染症対策を強力に推進するため「ワクチン接種」と「感染拡大防止対策」の2つを柱に、市民の皆さんがワクチンを円滑に接種できるよう、市医師会等と協力・連携しながら進めます。 ※ワクチン接種情報を16～19ページで詳しくお知らせしています。

●ワクチン接種体制の整備と接種の実施【新規】

- ・ワクチン接種協力医師の確保および接種会場設置運営
- ・ワクチン接種予約システム構築
- ・コールセンター設置運営（予約受付・相談窓口等）
- ・ワクチン接種状況管理
- ・ワクチンに関する情報提供



12 子ども育成相談支援体制の強化【新規】

妊娠・出産から子育てへと移行するライフステージに応じた、きめ細やかな切れ目ない支援を行います。4月から「子ども家庭総合支援拠点」を子ども福祉課に設置し、児童虐待の未然防止や再発防止を図ります。

こども育成支援センターでは、発達が気になる子どもやその保護者に対し、専門職による相談と育成支援を行います。

●子ども家庭総合支援拠点事業【新規】

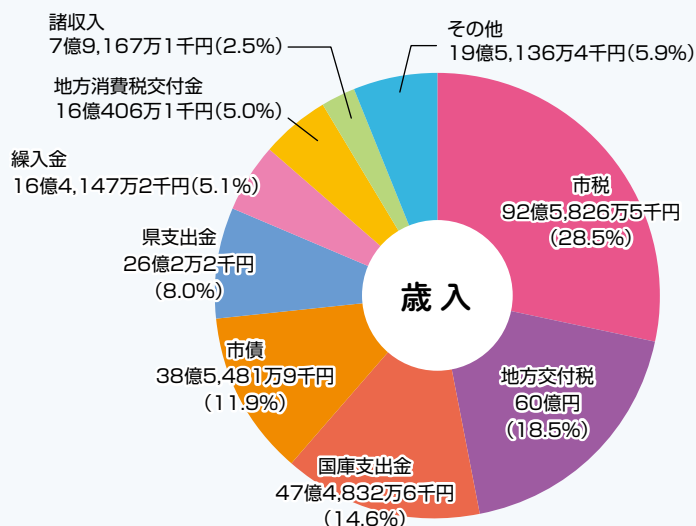
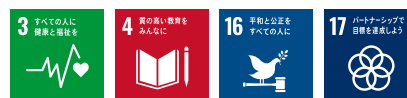
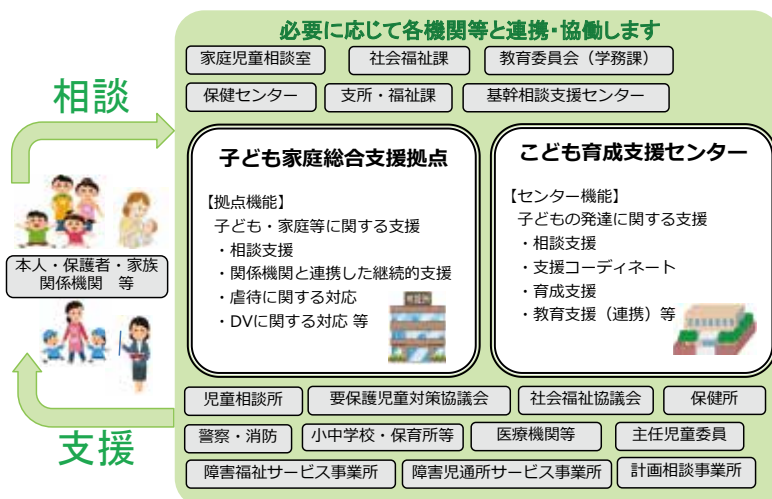
- ・子どもとその家庭および妊産婦等に対し、実情把握・情報提供・相談・調査・指導・関係機関との連絡調整等の実施
- ・児童虐待の早期発見・早期対応
- ・DV（配偶者等からの暴力）相談対応 等

●子ども総合相談支援事業

- ・医師や専門職（公認心理師・臨床発達心理士・保健師等）による発達相談、心理職による発達検査
- ・ペアレントトレーニングの実施
- ・支援者や指導者向けの各種研修を実施

●子ども総合育成支援事業

子どもの発達の状態に応じた知識・技能の習得を支援



【歳入】

自主財源のうち、市税は92億5,826万5千円を見込んでいます。依存財源の地方交付税は60億円、国庫支出金については47億4,832万6千円を計上しました。このほかの歳入についても、適切な見通しのもとに計上すること、今後も積極的に財源の確保を図っていきます。

14

妊娠・出産・子育て期の支援強化【新規・拡充】

安心して妊娠・出産ができ、すべての親と子が健やかに生活できるよう支援体制を強化します。

●子育て世代包括支援センター事業

全妊産婦の状況把握と支援や、ハイリスク妊婦の支援、産前産後サポート事業の実施

●在宅子育て支援事業（親と子の体験事業）【新規】

●在宅子育て支援事業（ママ・リフレッシュ事業）【拡充】

●特定不妊治療費補助事業【拡充】

●母子保健事業

●病児保育事業

●子育て短期支援事業

養育困難時における一時養育・保護



13

保育体制・環境の充実【拡充】

●子育てのための施設等利用給付事業

幼児教育・保育無償化対象の認定を受けた3歳以上の児童の認可外保育・預かり事業等にかかわる施設等利用費を補助

●児童クラブ運営事業

●保育対策総合支援事業

・保育体制強化事業

保育士業務負担軽減のため、清掃業務や遊具の消毒など周辺業務を行う短時間勤務者配置費用の補助

・保育補助者雇上強化事業【新規】

保育士の離職防止のため、保育士資格取得を目指す方を保育補助者として雇い、資格取得後も継続して勤務してもらうための費用の補助

●保育士就労支援事業

保育士不足解消のため、笠間市に住民登録し、同一施設に正規雇用職員として2年以上の勤務が見込まれる保育士等を補助

●くるす・ともべ保育所管理事業【新規】

公立保育所の保育士の業務負担を軽減するため、保護者との連絡、登園・降園の記録、保育に関する計画・記録が可能なシステムを導入し、保育環境のICT化を推進



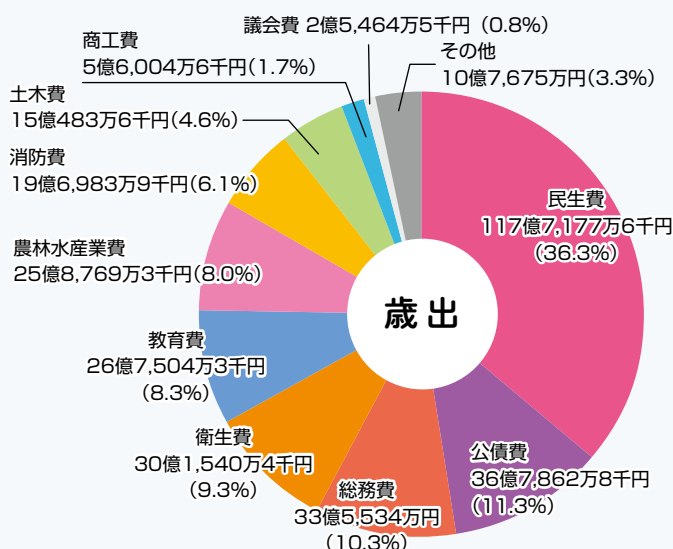
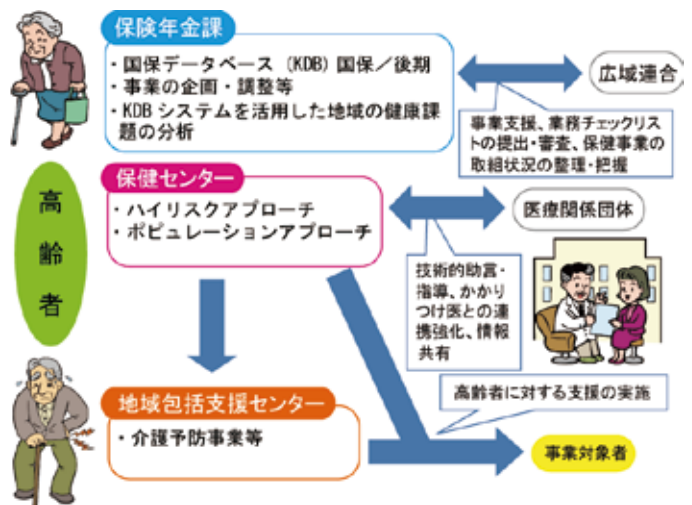
15

フレイル対策と介護予防体制の強化【拡充】

医療専門職による相談や訪問指導等、被保険者の生活習慣病等の重症化予防や心身の機能維持を図ることを目的に、保健事業と介護予防を一体的に実施します。

●高齢者に対する個別的支援

●通いの場等への積極的な関与等



【歳出】
民生費には、障害者自立支援給付費、民間認定こども園および保育所入園負担金、生活保護給付費、児童クラブ運営などの経費として117億7,177万6千円を計上しました。
総務費には、行政のデジタルトランスフォーメーション関連やマイナンバーカード交付事務、また企業立地促進事業にかかる経費など33億5,534万円を計上しました。
衛生費では、新型コロナウイルス接種や最終処分場整備などの経費として30億1,540万4千円を計上、教育費には、小中学校のGIGAスクール関連や、小中学校の給食、図書館や公民館の運営などの経費として26億7,504万3千円を計上しました。

16 人材育成・生活支援の強化 【新規】

これまでの生活困窮者支援に加え、感染症の影響で収入が減った方にも対応した新たな支援メニューを加えます。また、自殺対策・ひきこもり支援等とも連携しながら、安心した生活を送るための支援を強化します。

●生活困窮者自立支援事業（家計改善支援）

生活に困窮する方の家計の課題を明らかにし、専門的な助言等を行うことで早期に生活を再生できるよう支援

●生活困窮者自立支援事業（就労準備支援）

一般就労に直ちに就くことが困難な方が安定的に就労できるよう、生活習慣形成の訓練・社会的能力の習得などを支援

●地域自殺対策強化事業

●ひきこもりサポート事業



17 サテライトオフィス・ワーケーション等の誘致 【新規】

感染症の影響で、テレワーク等も含めて地方で働くことや暮らすことを考える方を移住等につなげるため、ワーケーションやサテライトオフィス等の場所を確保し、地域活性化にもつながる新しい人の流れを創出する取り組みを公民連携で推進します。

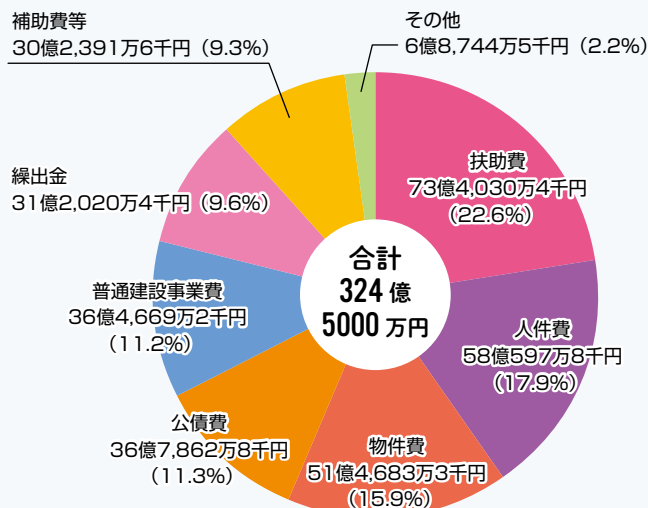
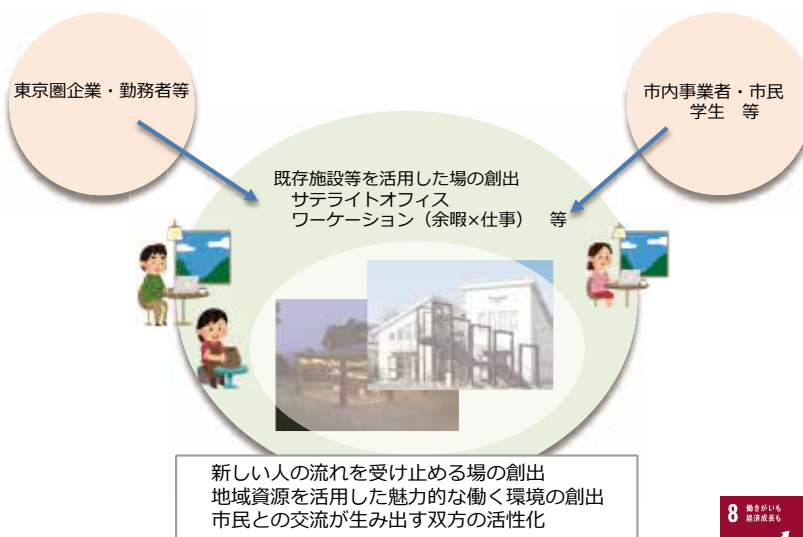
●テレワーク等促進事業【新規】

空き家・空き店舗等を活用し、コワーキングスペース・ワーケーション等の場として確保を図るとともに、利用企業等の確保に向けたプロモーションを展開

●定住化促進事業【拡充】

●政策調査事業（人材確保推進）【新規】

安心・安全をはじめとした「笠間暮らし」をテーマとしたwebマガジンの運営等を通じた人材確保の展開



【歳出予算性質別内訳】

歳出予算を性質にしたがって区分し、生活支援や道路整備などの事業を実施するために、どのような性質の費用がかかる見込みなのかを表します。

笠間市では、児童・高齢者・障がい者・生活困窮者など、福祉などの支援に向けた経費（扶助費）が最も多くなっています。

●遊休農地を活用した笠間の栗生産拡大事業

管理の行き届かない栗畑や遊休農地を借り上げ生産を拡大し、遊休農地の解消と、品種・サイズ別出荷による販売価格の向上とブランドの確立

●かさま新栗まつりの開催

●栗生産規模拡大支援事業補助金【拡充】

栗の作付面積を10a以上拡大する農家を補助し、経営規模拡大と遊休農地の抑制

●栗苗木支援事業補助金

栗の安定的な生産のため、計画的な苗木の新植や優良品種更新を推進し、品質向上と収穫量増加による生産の振興

●栗栽培農地貸付補助金

栗を栽培する農家や新規就農者に、農地を貸し出す農家を支援し、栗生産農家の増加と農地の集積および遊休農地の解消

●栗栽培機材等導入補助金【拡充】

●強い農業・担い手づくり総合支援交付金【新規】

「笠間栗ファクトリー株式会社」を設立し、「笠間の栗」のブランド化と販路拡大による栗生産者の所得向上の推進



●地場産材の普及促進策の展開【新規】

笠間焼と稲田石の市内での活用促進に向け、住宅や、店舗・事務所・工場等の建物を新築・増改築・リフォーム等する際に、地場産材の活用にかかる費用を補助

●JAPANブランド（笠間焼海外展開）の推進【拡充】

英国をターゲットに、商品開発や販路開拓を支援し、笠間焼のブランディングや安定した販路を確保

●窯業・石材業の販売強化

地場産業の窓口となる、笠間焼協同組合と稲田石材商工業協同組合の機能強化のため、補助金支援や人的支援等を通じて、産地の販売強化や新たな販路を開拓

補助制度や笠間陶芸修行工房の運営を通じた、将来の産地を牽引する人材の育成

普及促進展開

笠間焼と稲田石の活用補助制度の創設

海外展開による販路拡大

JAPANブランド推進事業の活用（笠間焼）

産地の稼ぐ力の強化

- ・笠間焼協同組合
- ・稲田石材商工業協同組合

地場産業の販売力強化



教育費

各小中学校や公民館・図書館の運営など



35,679円

衛生費

予防接種や各種健診、ごみ処理事業など



40,219円

総務費

税金の賦課、戸籍や住民登録の経費、広報紙の発行など



44,753円

公債費

市債の元金・利子の返済



49,065円

民生費

高齢者・障害者・児童・医療福祉など



157,009円

市民一人当たりに使われるお金

※令和3年1月31日
現在人口
(住民基本台帳)
74,975人

432,811円

その他

諸支出金など



14,362円

議会費

議会の運営など



3,396円

商工費

商工業振興や観光施設管理など



7,470円

土木費

市道の整備・補修や公園管理など



20,071円

消防費

消防団や防災施設の整備など



26,273円

農林水産業費

農林業振興支援や農地の基盤整備など



34,514円

20 国際交流の活性化（台湾交流事務所）【拡充】

●台湾からの外国人観光客誘客促進

- ・旅行博・商談会等を活用した観光 PR やメディア媒体を利用した情報発信
- ・笠間市台湾インバウンド推進協議会を中心とした受入環境整備等により、台湾からの誘客を促進

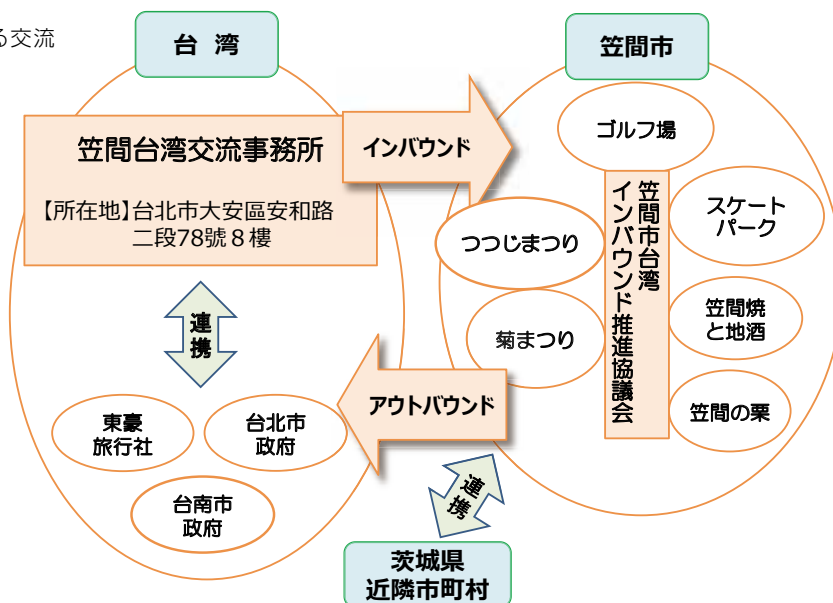
●台湾との文化交流や食を通じた交流

- 図書館における台南市との相互展示等による交流
- や、学校給食への台湾産バナナ等の提供

●台湾政府及び自治体との連携による交流人口の拡大

- 台北つつじまつり・士林官邸菊展との連携
- や、在日外国人との交流

●茨城県及び県内市町村との広域連携による誘客促進【拡充】



21 あたご天狗の森公園デザインリノベーションの推進【拡充】

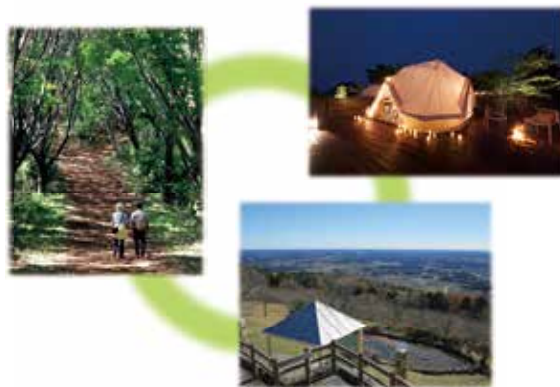
遊具等施設の老朽化が課題となる「あたご天狗の森公園」を活用した周辺環境の形成を図ります。

●観光施設整備事業（公園利活用調査）【拡充】

愛宕山地域の更なる活性化のため、「あたご天狗の森公園」活用イメージの検討

〈調査計画内容〉

- 優れた景観、環境を活かした森林空間の充実
- 既存施設の「あたごフォレストハウス」の効果的な活用
- 森林と人とのふれあいの場とした公園施設の新たな活用



■特別会計内訳

(単位：千円)

区 分	予算額
国民健康保険	7,480,000
後期高齢者医療	987,000
介護保険	7,391,000
介護サービス事業	22,000
農業集落排水事業	540,000
特別会計合計	16,420,000

一般会計	324億5,000万円
特別会計	164億2,000万円
企業会計	75億4,686万1千円
予算総額	564億1,686万1千円

■企業会計内訳

(単位：千円)

区 分	予算額
病院事業	1,013,363
収益的支出	966,708
資本的支出	46,655
水道事業	2,853,082
収益的支出	1,611,103
資本的支出	1,241,979
工業用水道事業	42,159
収益的支出	27,606
資本的支出	14,553
公共下水道事業	3,638,257
収益的支出	1,823,780
資本的支出	1,814,477
企業会計合計	7,546,861

企業会計は、事業から得る収益を主な財源として運営していく会計のことです。本市では、病院事業、水道事業、工業用水道事業及び公共下水道事業の4会計となります。

【企業会計】

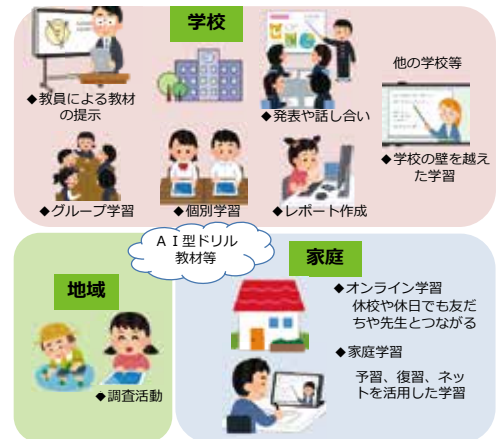
計のことです。

【特別会計】

特別会計は、国民健康保険や介護保険など特定の事業を行う場合、保険料や使用料などそれぞれの特定収入で運営していく独立した会計のことです。

小中義務教育学校において、1人1台端末環境の下での「主体的・対話的で深い学びの実現」に向け、授業の活用を進めます。

- 1人1台端末
iPadやChromebookを1人1台持ち、授業などで活用
- ICT教育指導支援員の配置【新規】
授業や教材の作成等でICT機器を活用するための支援員を配置
- オンライン通信費の支援【新規】
低所得世帯へオンライン通信費を支援



文化財の保存事業に加え、日本遺産のブランドを活用した事業を展開します。

- 日本遺産 PR の強化【拡充】
「かさまじこ」の更なる普及啓発を重点事業として、笠間・益子共同での文化財公開やシンポジウムの実施、市施設での日本遺産パネル展示、街の雰囲気づくり向上への取り組み等を推進
- 笠間城跡の国指定史跡への推進

日本遺産 ブランドの活用

- ・ ツアーガイド育成講習会、着地型旅行商品開発の実施〔人材育成〕
- ・ かさまじこ文化財公開、推奨店事業、シンポジウム、商品開発ワークショップ等の実施〔普及啓発〕
- ・ 課題抽出モニター調査の実施〔調査研究〕
- ・ 児童・生徒向けストーリーブック、プロモーション映像の作成〔情報コンテンツ作成〕等

笠間城跡 保存整備調査

- ・ 調査の実施による全体像把握
- ・ 笠間城の歴史的価値付け・評価
- ・ 事業周知（歴史フォーラム等）

文化振興の強化



東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプの実施など、ホストタウン相手国・地域の選手等と人的・経済的・文化的な交流を進め、地域活性化等を図ります。また、笠間市ルートに聖火リレーにおいて、聖火ランナーを市民総ぐるみで応援し、オリンピック・パラリンピックの機運を高めるとともに、スポーツ参加への関心を向上させます。

- 【ホストタウン相手国・地域】
タイ（ゴルフ）・エチオピア（陸上競技）・台湾（ゴルフ）
※登録申請中：アメリカ（スケートボード）・フランス（スケートボード）

- 東京2020ホストタウン推進事業
 - (1) エチオピアの英雄アベベ・ピキラ・メモリアル かさま陶芸の里ハーフマラソン大会の開催
 - (2) 県内大学に在籍中の台湾人留学生との交流事業の実施
 - (3) ホストタウン相手国・地域選手を応援するパブリックビューイングの実施
- 東京2020事前キャンプ交流事業【拡充】
 - (1) 市民が見学できる公開練習日の設定
 - (2) 競技終了後にエチオピア選手団のメダル獲得報告会を実施
- 東京2020聖火リレー応援事業
- 東京2020パラスポーツ啓発事業



大会直前～大会直後

- 聖火リレー（7月4日）
 - ・ 応援イベント
 - ・ サイドイベント
- 事前キャンプ（7月中旬～下旬）
 - ・ アメリカスケートボードチーム
 - ・ フランススケートボードチーム
 - ・ 台湾ゴルフチーム
- パブリックビューイング
 - ・ スケートボード
(7月25日・26日、8月4日・5日)
 - ・ ゴルフ (8月1日・7日)
 - ・ マラソン (8月7日・8日)
- 事後交流（8月中旬）
エチオピア選手団メダル獲得報告会

- ～アベベ・ピキラ・メモリアル～
かさま陶芸の里ハーフマラソン大会
(12月19日)
- 台湾留学生交流事業
- パラスポーツ啓発事業

※令和4年度以降もホストタウン相手国・地域との交流事業を実施し、友好関係を継続。

スポーツによるまちづくり・人材育成の強化【新規】

スポーツが得意な子どもだけでなく、スポーツに関心のない子どもにも自分の特徴に合うスポーツを発見し、その競技に継続して取り組むことを促進します。

「かさまスポーツコミッション」を核としたスポーツツーリズムの構築などにより、地域経済の活性化を進めるとともに、プロスポーツチームの誘致・支援を図り、市民の誇りの創出・都市ブランドの魅力向上を図ります。

●アスリートの発掘・育成【新規】

- 子どもたちにスポーツへの興味・関心を深める“キッカケ”の創出
 - ・モーションキャプチャ技術・赤外線機材を使いスポーツ能力を測定
 - ・向いているスポーツを64種類からベスト10を選出
 - ・継続して活動できる場（スポーツ少年団）を提案
- スポーツを通じた国際交流の推進
 - ・エチオピアトップアスリートによる陸上競技指導

●モチベーションの向上

- 練習成果を発揮する場の提供
- ・各種スポーツ大会の開催

●地域経済の活性化と都市ブランドの魅力向上【新規】

かさまスポーツコミッションの創設・推進

- （1）笠間市民の誇りの創出
 - ・茨城アストロプラネッツをはじめとするプロスポーツチームの誘致・支援
- （2）スポーツツーリズムの推進
 - ①スケートボード体験モニターツアーの実施
 - ②指定管理者主催事業との連携
 - ③大会誘致開催奨励金・開催費補助金制度の検討
- （3）アーバンスポーツの推進
 - ・まちなかを会場としたスポーツ競技の開催や体験会の実施を検討



芸術文化活動の魅力発信強化

笠間焼をはじめとした伝統工芸、歴史・文化芸術を気軽に親しむ機会の創出を図り、豊かな感性を育むとともにそれらを継承し、郷土を愛する意識の醸成を図っていきます。

- かさま音楽フェスタ ～奏～ の開催
- 笠間陶芸大賞展負担金【新規】
- 全国こども絵画コンクール in かさま補助金
- 全国こども陶芸展推進事業
- 偉人マンガ製作事業【新規】

笠間焼の近代化に貢献した事業者「田中 友三郎」の生涯をマンガ本にし、学校授業へ導入



キッズコンサート



全国こども陶芸展



多様なライフデザイン形成への支援【新規】

ライフステージに応じた支援や、仕事と生活における生涯設計の推進を図ります。

また、誰もが安心して外出できるまちづくりを目指して、バリアフリー情報の収集・発信を行い、ユニバーサルデザインのまちづくりにつなげていきます。

●結婚新生活支援事業【新規】

新婚世帯の新生活にかかる初期費用（住宅取得・賃借、引越費用）を支援

●多様なライフスタイルの提案

- ①有資格者復職支援セミナーの開催
- ②学生対象のライフデザイン講座の開催

●ユニバーサルデザインの推進

障がい者体験をしながらバリアフリー情報を収集するイベントを開催



移住促進による人材確保の推進【新規】

コロナ禍での地方回帰の流れやテレワーク等の推進による働き方の多様化を受けて、地域との関わりを持ち活躍する人材の確保を推進します。

●定住化促進事業【拡充】

テレワークの推進や移住等による新たな人の流れを創出

●地域おこし協力隊事業

●政策調査事業（人材確保推進）【新規】

「笠間暮らし」をテーマとしたwebマガジンの運営による人材確保策を展開



生涯活躍のまち（笠間版CCRC）モデルコミュニティの形成

「将来に希望を持ち、安心を感じ、市全体に波及する笠間暮らしの創出」に向けたモデルコミュニティ（笠間版CCRC）の形成を推進します。

東京圏からの移住推進策と連動した取組みを推進します。また、今年度は、公民連携によるモデルコミュニティ「笠間リビング・ラボ」の構築とともに、プロモーション等の展開による具体的な居住者確保策を実施します。

●モデルコミュニティの整備

生涯活躍のまちのモデルとなるコミュニティ（分譲宅地）の民間による整備

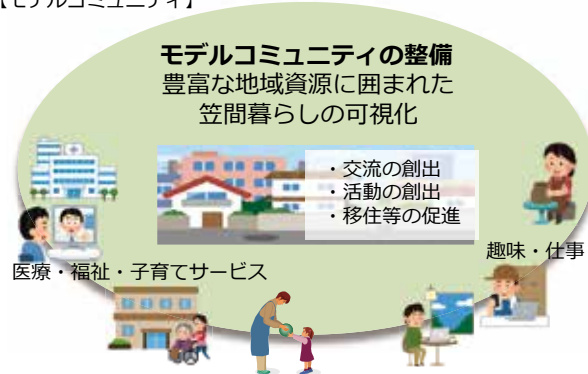
●プロモーション活動と居住者確保策の展開

居住者確保に向けたモデルコミュニティのプロモーション等の展開

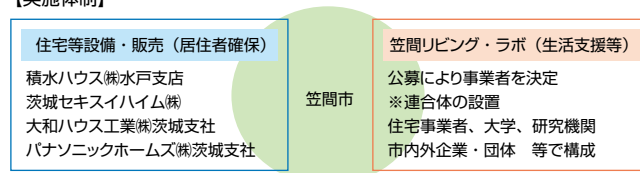
●笠間リビング・ラボの構築及び運営準備



【モデルコミュニティ】



【実施体制】



自治体デジタルトランスフォーメーションの推進【新規】

デジタル技術の進展やウィズコロナにおける人々のライフスタイルの変化を背景に、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革します。

●行政手続きの原則オンライン化

●窓口での手続きの簡略化（キャッシュレス決済の導入）

- ・子育て・福祉相談のオンライン化を推進
- ・電子契約の導入

●テレワークの拡大とペーパーレスの推進

●ICT化による業務効率化

●マイナンバーカードの普及促進